

多領域における心理的アプローチの展開 —HIV 領域の立場から—

辻 麻理子[†]第70回国立病院総合医学会
(平成28年11月11日 於 沖縄)

IRYO Vol. 71 No. 8 / 9 (346-348) 2017

要旨

筆者の HIV 領域の全業務は国立病院機構九州医療センターに関する活動で13年が経過した。多職種チーム医療が展開する中での心理療法士業務は、着任当初は HIV 感染症患者の告知直後対応や抑うつ状態への心理面接が中心的役割であった。その後、講演活動、専門職教育、臨床研究、行政や他施設との研修会運営、厚生労働省の研究班活動と展開したが、これはこの領域独自の業務経験であった。13年が経過した現在、すべての業務が時間経過とともに内容の複雑化・多様化がすすみ、活動地域も広がっている。本稿では、以下の3つの視点から話題提供を行う。

1. 心理療法士として発揮できたスキル：内科である HIV 領域では患者の精神的変調は専門外領域である。心理状態のアセスメント、心理面接、精神科受診の判断を含めた他職種へのコンサルテーションは、患者が精神科等専門的支援にアクセスするため発揮できたスキルと考える。

2. 実務から身につけたスキル：HIV 検査相談や専門職向けの研修会の事業運営、心理職向けの教育は実務から身につけたスキルである。着任当初は既存の全国規模の研修会の企画・運営に携わり、10年目以降は九州内での研修会立ち上げ支援を行っている。心理職教育は1年目から取り組んだ。

3. 多職種チームへの貢献：2007年以降クローズアップされている HIV 関連神経認知障害において、心理アセスメントを柱とした臨床研究データを提供し、当該疾患の鑑別診断への活用、パス入院の開設など、診療上重要な取り組みとして展開している。

以上の点から、今後も HIV 領域で多職種チームに有効な心理臨床活動を行うためには、心理面接や心理アセスメントといった専門性に加え、医療や地域活動に活かせる新たな知見・支援策を臨床研究によって見出し、提供することが求められると考える。

キーワード 心理療法士, 多職種チーム, アセスメント

国立病院機構九州医療センター 心理療法士室 [†]心理療法士

著者連絡先：辻麻理子 国立病院機構九州医療センター 心理療法士室 〒810-8563 福岡市中央区地行浜 1-8-1

e-mail: cptsujimari@kyumed.jp

(平成29年2月21日受付, 平成29年5月12日受理)

Developments and Expansions of Psychological Approach in Some Areas; From HIV Infection Viewpoint

Mariko Tsuji, NHO Kyushu Medical Center

(Received Feb. 21, 2017, Accepted May. 12, 2017)

Key Words: clinical psychologist, multidisciplinary team, assesment